



【手法】

地域新電力

再エネ

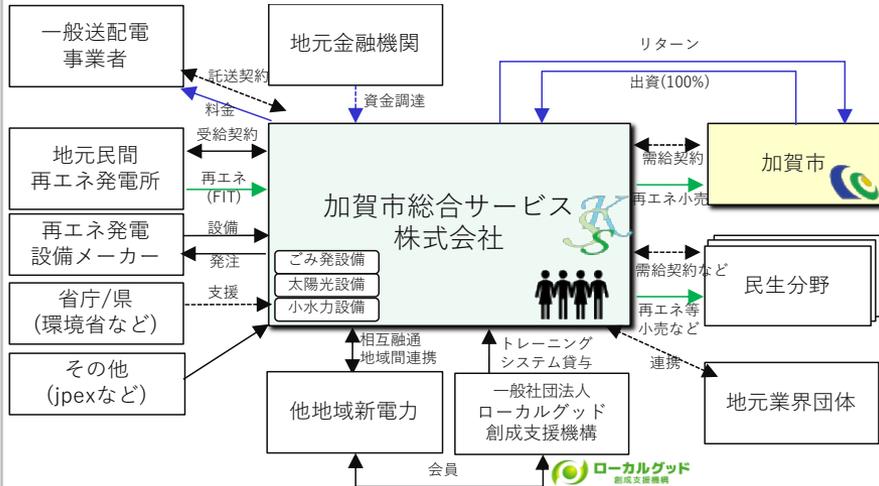
防災型インフラ

【目的】

RE100

再エネ拡大

1. 事業イメージ (目標年度：2038)



2. 事業概要

【目的】 地域資源である再エネを活用した「地消・地産プラットフォーム」というビジネスモデルを構築し、地域課題に応えながらRE100を目指す。

【手段】 再エネ（小水力・太陽光など）、防災型インフラ、省エネ/DR事業の導入

【特徴】 地域課題を解決する「地消・地産プラットフォーム」の構築、再生可能エネルギー開発の検討、防災型エネルギーインフラの検討

3. 事業効果 (目標年度：2038、基準年度：2018)

【電力の地産地消率】 100%

【二酸化炭素排出削減効果】 25,352 t-CO2/年

【再生可能エネルギーの利用量(電力)】 299,698 MWh/年
(加賀市内約45%の世帯分の電力需要)

【地域経済付加価値】 1,707,572,018 円/年

4. 事業体制



【普及促進】 供給先の拡大、普及啓発活動の実施



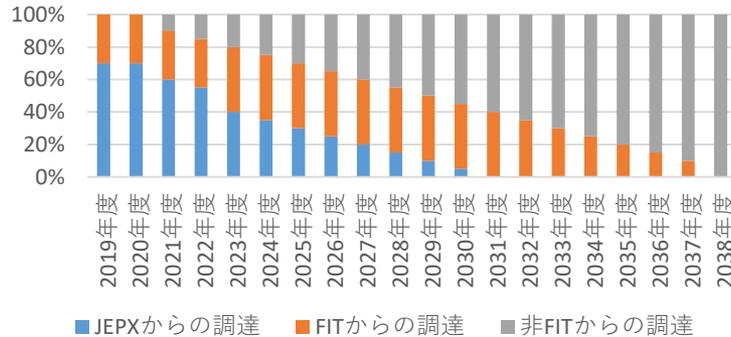
【地域新電力】 本事業の中心となる電力小売事業の実施



株式会社 まち未来製作所

【地域経営コンサル】 地域新電力と行政の経営コンサル

電源構成比率



5. 事業スケジュール

★基準年度 (現在)

2018

調査準備

Step1.2020

再エネ供給開始
(太陽光)

■ 卒FITの買取開始
■ 屋根 (自家発)

Step2.2022

再エネ供給開始
(小水力)

■ 水道関係供給開始

★目標年数

Step3.2038

再エネ100%の電力供給

■ 加賀市RE100達成



別紙

【手法】

地域新電力

再エネ

防災型インフラ

【目的】

RE100

再エネ拡大

①自治体の基礎情報

【規模】

人口：67,571人（平成30年4月1日時点）、世帯数：29,045世帯（平成30年4月1日時点）
歳入・歳出：316億円（平成30年度一般会計予算）、面積：305.78km²

【立地】

石川県の南端に位置し、北部は変化に富む海岸線や松林丘陵地が広がり、中央部の平野を緩やかな山並みが囲み、南部に自然豊かな山地が広がっている。大日山を源とする大聖寺川・動橋川流域の豊かな自然の中に多様な歴史・文化が育まれ、九谷焼や山中漆器をはじめとする伝統工芸や機械工業が発達した地域であるほか、山中、山代、片山津3温泉を有する温泉観光都市でもある。

参考）温泉入込数（平成28年度加賀市統計書） 山代温泉：83万人 山中温泉：48万人 片山津温泉：68万人

【産業構造】

産業別従業者数の割合（平成26年度経済センサス）

製造業30.77%、農林水産業0.44%、鉱業0.04%、建設業4.78%、電気ガス熱供給水道事業0.05%、情報通信業0.47%、
運輸業2.79%、卸売業3.30%、小売業12.56%、金融保険業1.17%、不動産業1.01%、飲食店6.25%、
旅館その他宿泊所7.86%、医療福祉14.46%、教育学習支援3.37%、複合サービス業1.76%、その他サービス業8.91%

②各主体の参画理由

【加賀市】

「加賀市の20年後の未来を拓く」ために今考えられる様々な課題に対し、資金の流出を止める、豊富な地域資源を活用する、新たな要素も探し活用するといった地域経済の循環を迫り、さらに発展させることで、本分野における先進都市を目指すため。

「地消・地産プラットフォーム」の立ち上げ、地域活性化やRE100を目指すため。

【加賀市総合サービス株式会社】

加賀市が100%出資の企業として、加賀市の掲げるビジョン「加賀市の20年後の未来を拓く」の実現に向けて、「地域内経済循環」のポリシーに基づき、新規に電力事業に参入し「地消・地産」の基盤をつくり、RE100を目指し、市内の再生エネルギーを増やすために投資をするとともに、持続可能な経済・社会づくりに貢献するため。